科目名	音楽ビジネス・マネージメント２							年度	2024
英語科目名	Music Business & Management 2							学期	後期
学科・学年	コンサート・イベント科　１年次	必／選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	本多功一	教員の実務経験		有	実務経験の職種		舞台監督、コンサート制作		

【科目の目的】

アメリカ発祥の音楽ビジネスは、日本の学問としての歴史は浅い。しかし室町より舞台が芸能の特別な場として位置づけられた歴史もある。エンタテインメント産業に於ける業務としての舞台（ステージ）制作、プロダクションや音楽出版など権利ビジネスをベースにした事業展開について歌モノを中心として広く取り扱い、人対人というアナログな双方向について、幅広く業種や職種における必要な情報を整理・獲得し、常に知的好奇心やアイデンティティを持ったスタッフとして、パフォーマーとの共同作業者として活躍するために、幅広く領域をカバーし、ビジネスとしてセルフを含めた広義でのマネジメントスキルを身につけていく。

【科目の概要】

前期において、各科目で実施されている科目内容の理解を前提に、コースに特化していも共通事項として、また他のコースでは専門的に行われている内容も、就職した会社の業態により求められる知識までを想定し、共有事項としておくべき範囲も踏襲していく。 また、就職活動を控えている時期になるため、自分を伝えること、アーティストなどから学んだアーデンティティを、自分に置き換え自分らしさを伝えること、前期で知り得た業務から興味を持った（より深めた）ことを追及していくためのヒントも数多く提供し、自らがこの仕事でやっていくという意思を固めていくために必要な情報を提供していく。あくまで担任、CSCの指導をベースに補完的な位置づけて実施する。

【到達目標】

授業で伝達すべきねらいとして設定する履修目標・内容に対して、それを受講した際、習得意欲をもっての理解を到達目標とする　A.エンタテインメント産業に求められる資質を理解し、客観性と妥当性を備えた自分らしさを伴う意見を持つこと
B.進取の姿勢で得た新たな知識・情報を確実に習得し、獲得したそれらを結びつけることで理解をしていく　C.産業の全体像を把握し、産業間での連携や基本業務、用語などを確実に理解して現場に出る素地を形成していく

【授業の注意点】

授業開始時には筆記（入力）ができる状況にしておく。要点や不明点を書き出し調べ、解決ができないことは質問をする。知的好奇心を持ち続け、波及・派生した情報を自得していく。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル５ 優れている	レベル４ よい	レベル３ ふつう	レベル2 あと少し	レベル１ 要努力
到達目標 A	オリジナルな発想で関連業種を理解した上で工程を作成でき、制作過程全体を安全に実施できる。	経営的視点からビジネスとしての産業という視座を有し、不成功事例からの活用を引き出せる。	身近な事例、得意なジャンルなどを例にして、数ある現行の手法からベネフィットを一定理解する。	業務に対する職業人の思考から、その意図するところを理解できる。肯定できる理由を説明できる。	好き嫌いのみでの決定を脱し、他者の意見・文書をいったん自分に取り込み判断することが必要。
到達目標 B	広く得た知識を知恵として変換し、それらを活用することで文字・言語化して伝達する力を有する。	得意なジャンルに限らず知識を応用することで、各種の制作を実施するための基礎が備わっている。	参考図書を活用し、それらを理解しながら日々獲得する情報に加えていくことができる。	知的好奇心を持ち、興味のあることから身近な素材を使い、調べる習慣を体得することを求める。	情報の整理技術、各種セグメント実務に欠ける。問題点などをまとめる基本的な基礎力を求める。
到達目標 C	現場で困らないために必須な応用する力を有し、必要な情報活用能力を自得により醸成させている。	時系列で業務の受注、発注について理解し、いろいろなケースに応じて変化する実践の準備が整っている。	各業種での内容と関連業種について具体的なやりとりを理解している。	産業の理解を必要とし、各業種での内容と関連業種について作品（商品）の視点での把握を求める。	エンタテインメント産業の基本的な実務や、各業種に求められる考え方を理解していない。

【教科書】

授業内で使用する必要がある場合は配布、当日実施した授業内容の要点のまとめ、追加事項を毎回分Webでアップロードする

【参考資料】

逐次授業内で指示、予備的に情報を要求する場合は授業最後に、またWeb上で指示する

【成績の評価方法・評価基準】

定期試験、授業内課題、定期提出物、簡易試験

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	音楽ビジネス・マネージメント２	年度	2024
英語表記	Music Business & Management 2	学期	後期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	救急対応	イベント会場での救急処置の基本と、想定される対応を情報として周知する	1	イベント会場での対処	ねん挫など、お客様の意思に基づき応急処置の方法を知る。	3	
			2	休息と体勢	回復体位、坐位など、お客様の状況に応じた案内を理解する。		
			3	基本情報	ADE、担架、夜間救急などイベントに必要な情報を理解する。		
2	コンサートスタッフ１	コンサートに関わるスタッフ業務の事例研究を表方スタッフに特化して理解する	1	表方スタッフ	舞台端から客席側を表方スタッフとしてその業務を確認する。	3	
			2	企画から実施前	担当セクションごとに工夫する点などを解説し現場に活かす。		
			3	実施から公演後	作成する書類の工夫などを解説し、現場に活用できるようにする。		
3	コンサートスタッフ２	コンサートに関わるスタッフ業務の事例研究を裏方スタッフに特化して理解する	1	裏方スタッフ	舞台端から客席側を裏方スタッフとしてその業務を確認する。	3	
			2	各種図面	会社ごとに違う図面の工夫を紹介し自分なりの活用を加える。		
			3	当日だけではない	裏方も企画～制作までを担当できる一定のレベルを獲得する。		
4	アイデンティティとミュージシャン	発するメッセージ、その人らしさを感じ取ってみることを体感してみる	1	アイデンティティとは	アイデンティティとはなにか、自分らしさを探して確認する。	3	
			2	オリジナルとは	スタッフにもらしさを求められる事例を紹介、理解する。		
			3	今から構築	他人の影響を受けて自分を確立していく時期である認識。		
5	自分らしさを探してみる	SPIや自分の普段から行うこと、長所が見つかるチャートなどで自分を探す	1	SPI	就職試験でのSPIの視点を紹介し自己PRと複数社応募に対応。	3	
			2	自分を知る	マニュアルではない自分探しをを紹介し、きっかけを作る。		
			3	社会学概論	当たり前を別角度から見ることで新たな視点を獲得する。		
6	イベント産業	国内で最も開催されているセールスプロモーションイベントの概要を理解する	1	SPイベントとは	目的から目標設定し販促につなげるイベント構造を理解する。	3	
			2	コンセプトとは	まずはコンセプトありき。イベント構築手順を理解しておく。		
			3	文化イベント	祭礼や市民まつりなどの改善点を考察し問題意識を持つ。		
7	ビジネス相場	コンサートの観客動員数、公演数、都内の地理や交通手段、人口などの相場	1	まずは地理から	開催地、移動手段と距離など一般的な相場の数字を理解する。	3	
			2	日本国内の人口	公演数の決定などでは都市の人口など基本情報が必須である。		
			3	社会の相場	東京新大阪間の移動時間、大まかな料金など相場を理解する。		
8	映像、Visual	音楽ソフトの販売に限らず、MV、VP、ホリの映像など、音楽に関わる映像を知る	1	映像の仕事	MVやドラマ制作を事例に、映像業界の業種を理解しておく。	3	
			2	プリプロとポスプロ	企画・編成から完パケまでの業務の流れを理解しておく。		
			3	業務機と民生機	民生機の画素が向上しても根本的な違いを理解しておく。		
9	各種書類	専属契約書など実際の契約書や申請書、図面を使い業務内容と合わせて確認する	1	マネジメント契約書	実際の契約書にて、甲乙の負担や比率などを確認しておく。	3	
			2	出演契約書	コンサート･プロモーターと事務所間での契約内容を確認する。		
			3	テクニカル図面	会社ごとに作成が異なるが現場で打合せのための確認をする。		
10	権利ビジネス	前期他授業で解説をされている権利を、コンサートやフェスでの対応で確認する	1	コンサートに関わる権利	ホール使用の場合、著作権団体や官公庁への申請書類を確認。	3	
			2	TV中継などに関わる権利	ライブ配信やDVDなどソフト化するときの権利を確認。		
			3	宣伝に関わる権利	ラジオやTVなどスポットで関わる申請と許諾を確認する。		
11	各業種におけるマネジメント	業務を各業種でマネジメントするのは上司だけではなく、意識を持つことが肝要	1	企画段階	分析や調整など新人でも意識すべき業務を確認しておく。	3	
			2	制作	ステージ制作以外にも企画/運営において管理意識を確認する。		
			3	テクニカル	機材を使い業務を行う上で意識すべき点を確認しておく。		
12	知っているつもりをやめる	コトバや手法など、なんとなく流してしまっていることがあれば確認しておく。	1	ロックとは	ロックとはなにか、自分なりの説明ができるようにしておく。	3	
			2	HIP HOPとは	意味を分からずに使わないようにしておく。背景を理解する。		
			3	用語	専門的な語彙は専門業務を遂行する上で必要なため理解する。		
13	仕事に就く	就職して働いて金銭を得るということはどういうことか、採用側の視点で知る	1	売上から給与が出る	働いてお金を得る、実際は売上に対して責任を持つのが社員。	3	
			2	会社に入る	働き方の中で会社に入るメリットを解説し、意欲につなげる。		
			3	新人を採用する理由	会社が新人にもとめていることを実際の事例で理解しておく。		
14	後期のまとめ	初めて知る内容からこぼれ落ちている情報を再度確認して理解する	1	新譜	過去作品を含め自分にとっての新譜をどれだけ聴いたか確認。	3	
			2	ライブ	都内会場のなどでどのくらい聴くことができたかを確認。		
			3	市場	大都市での人の多さ＝市場の大きさを体験できたかを確認。		
15	音楽ビジネス・マネージメントのまとめ	一年の内容を掻いつまみ振り返る。覚えていて身についていることが当然である	1	マネジメントとは	マネージャー業務だけでなく業種共通の内容を確認しておく。	3	
			2	基本の徹底	いつの間にか悪い癖になっていることは自分で修正する。		
			3	成長	思考や行動が変わったか、良い癖になったかを自己分析する。		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等